

山仕事や豆腐づくりに挑戦 遊学の里 家族で親しむ夏休みの森

7月26・27日 吾川スカイパークで「第九回遊学の里 家族で親しむ夏休みの森」が行われ、高知市などから八家族、二十四人が参加しました。

初日は、長坂山で間伐や枝打ちなど林業体験で汗を流し、その後、地域の方と一緒に豆腐づくりにも挑戦しました。夕食は自作の豆腐やバーベキューを堪能し、夜は一日の汗をドラム缶風呂で流しました。

二日目は「カブトムシ相撲吾川場所」で盛り上がった後、工作教室、流しそうめんなどを楽しみました。

日ごろはなかなかできない体験に元気がいっぱい挑戦した子どもたち。歓声が夏山に響きわたった二日間でした。



つかまえた〜！

わんぱくカーニバルin仁淀

8月8日 長者川で恒例のわんぱくカーニバルが行われ、約300人が川遊びを楽しみました。

アユやアメゴ、ウナギのつかみ取り、アユのしゃくり大会などが行われ、真っ黒に日焼けした子どもたちは夏の1日を満喫しました。



アユのしゃくり



初めて体験する子どもたちが多かった豆腐づくり。興味津々…

闇に浮かぶ炎の輪

伝統の火回し 谷山



8月15日 谷山に伝わる伝統行事「火回し」が行われ、住民らは先祖の霊を迎え豊作と家内安全を祈りました。夕暮れとともに、集落内のお大師堂に人々が集まり火回しが始まります。三層ほどのロープにくくり付けたたいまつに火をつけ空に向かって回すと、「ビュン、ビュン」と風を切る音とともに、赤々と燃える炎が大きな弧を描きます。地区内外から集まった大勢の人は、幻想的な世界に酔いしれ、歓声を上げていました。

池川茶業組合が農林水産大臣賞

第61回関西茶品評会出品茶審査会 が8月5日から3日間、佐川町総合文化センターで開催され、本町の「農事組合法人池川茶業組合」が、普通煎茶の部門(出品数・334点)で最高位の農林水産大臣賞に輝きました。また「池川茶業研究会」も同部門で全国茶生産団体連合会長賞を受賞しました。

この大会は、関西の銘茶産地の評価を高め、需要増大を図ることを目的に、毎年関係府県の持ち回りで開催されています。

なお品評会の褒賞授与式は10月18日(土)、高知県立県民体育館で行われます。

関西茶品評会



審査会の様子

超かんたん

有機農業勉強会

7月18日 第二回目の有機野菜勉強会(「高知439 国道有機協議会」主催)が行われました。

今回も「有機のがっこう」の山下一穂塾長を講師に招き、勉強会とは場作業を行いました。

午前中、池川コミュニティセンターでの勉強会では「有機農業の栽培各論」と題して、いろいろな野菜の作り方の講演がありました。それぞれの野菜に対する土づくりや病害虫への対処の仕方など、参加者からの質問にも答えながらの二時間半でした。

午後は、狩山のほ場で、背丈ほどまで伸びたソルゴー(緑肥)を粉砕し、すき込む作業を約二時間行いました。ほ場が広いため粉砕機を使つての作業となりましたが、参加者はその目的や手順といった山下氏の説明を熱心に聞いていました。

また二十八日には池川コミュニティセンターで有機茶栽培の勉強会も行われ、町内の茶農家が参加しました。

次回の勉強会は、九月中旬頃を予定しています。参加希望等の問い合わせは、役場池川総合支所地域振興課

まで。
(☎34・2115)



熱心な勉強会

巨大カボチャ出現!

「でかい…!」という言葉しか出てきません。久喜の畑に出現した直径約50㍍、重さ40㍍を超える巨大カボチャ。久喜にお住まいの藤田憲一さんが自宅近くの畑で栽培しました。

観賞用の大きくなるカボチャを今年初めて育てた藤田さんは、どんどん成長していくのを見るのが楽しかったそうで「来年は、もっと大きいものを作りたい」と話していました。



藤田さんと巨大カボチャ。左に置いてあるのが普通サイズのもので

森山地区 高まる防災意識

8月10日 森山地区自主防災組織の主催で、南海地震を想定した防災訓練が森山・高瀬周辺で行われ、住民や警察・消防関係者ら約八十人が参加しました。今回は森山の対岸にある高瀬地域からの参加もあり、合同の防災訓練となりました。

南海地震想定し防災訓練

今回の防災訓練は、午後零時半に南海地震が発生したとの想定で、まず区長が町防災無線を使って、住民に避難場所を指示。住民は避難持ちだし袋を背負い、農村公園

や掛水自動車前に集合。安否確認を行った後、対岸の高瀬臨時離着陸場（ヘリポート）まで車を使って移動しました。その後、起震車体験や重

傷のけが人に扮した住民四人が二回に分かれて高知県警航空隊のヘリコプター「くろしお」に乗り込むなど、負傷者の搬送訓練も行



負傷者搬送訓練

部を見学したり座席に座ってみたりすることができ、好奇心いっぱいの地域の子どもたちにとっては大きなプレゼントともなりました。

参加者は「学習会や訓練を繰り返すうちに、防災意識が高まってきました。今日の訓練もいざというときに役に立つと思います」と話していました。

森山地区自主防災組織

森山地区は平成十六年八月の台風十六号豪雨により集落裏山が幅四十メートルにわたり崩落、住民には避難勧告が出され中央公民館への避難を余儀なくされました。この災害を機に住民は自主防災に本格的に取り組むことになり、平成十八年七月に組織を設立、危険個所の点検や防災地図作成、裏山調査や夜間避難路点検などを行ってきました。

われました。

地区主催では初となるヘリによる搬送訓練は、佐川警察署の上田警備課長の計らいで実現したものです。訓練終了後は、ヘリの内

100歳おめでとう

8月9日 あがわ荘に入所されている片岡崎さんの100歳の誕生日に、藤崎富士登町長から長寿祝いが贈られました。

片岡さんは明治41年生まれ。平成8年に入所されるまでは加枝にお住まいでした。最近は寝たきりの状態となってしまいましたが、少し前までは大好きなお酒を週一、二回飲んでいました。今はあがわ荘の職員から贈られたお人形がお気に入り、わが子のようにいつもそばに置いてかわいがっているとのこと。

町長や職員から「おめでとう。もっと長生きしてくださいね」とお祝いの言葉を掛けられると、うれしそうに笑顔で応えていました。



「おめでとう」の声に笑顔で応える片岡崎さん



集落の守り神 河嶋山神社 自慢の建築美

美しい彫刻の一部



社殿の大きさ、美しさもさることながら、内部の彫刻なども大変立派なもので、住民にとってはこの神社を祭り、守っていくことにも生きがいを感じているようです。

今年四月には神社の境内でオカリナ・ケーナコンサートも行われ、独特の雰囲気の中、自然と音楽との一体感を堪能することができました。

河嶋山神社は、百川内字河嶋山にあり、百川内・大野両地区の氏神様として信仰されています。祭日は七月八日と十一月八日。

その由緒については池川町史に次のように記述されています。「ご神体はヒノキの薄板を直径二十八センチの円鏡のように作り、表面に管公の像がかすかに見え、裏面には嘉吉二（一四四三）年とある。天保三（一八三二）年再建の棟札が現存する。元は七社神宮といったが、明治三（一八七〇）年、地名に基づき河嶋山神社と改称する」

永代橋から百川内集落方面を望む。橋を渡り右は椿山、左は用居へ至る。



集落見聞録

（第31回）

もも か わ うち

百川内

百川内は7月末現在、21人、12世帯、池川総合支所から車で約10分にある集落です。土居川と椿山川の合流点に位置し、山々に囲まれた、静かなたたずまいの場所にあります。



阿部豊繁さん

区長の阿部豊繁さんに伺いました。

昔からカジやミツマタの栽培が盛んだったそうですが、現在は阿部さんが栽培しているだけとなっています。どの家庭も野菜などは自給自足の生活ですが、イノシシの被害が出て困ることがあるとのこと。

普段の生活については「車を持たない高齢者が多いが、移動スーパーで買い物は済むし、外出はコミュニティバス運行を大いに利用しています。ありがたいことです」と話していました。

また「終戦時は30世帯を超えていたが、若者は就職のため集落を出て行き、高齢化も進んで、世帯も人口も減少してきた。現在、最年少の方は62歳。集落の存続が危ぶまれています」と寂しそうに話していました。

